

宝塚市PPP／PFI手法導入のための優先的検討の方針

第1 目的

この方針は、宝塚市の公共施設等の整備等に多様なPPP／PFI手法を導入するための優先的検討を行うに当たって必要な手続を定めることにより、新たな事業機会の創出や民間投資の喚起を図り、効率的かつ効果的に社会資本を整備するとともに、市民に対する低廉かつ良好なサービスの提供を確保し、もって地域経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

第2 用語の定義

この方針において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。

- (1) PFI法 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）
- (2) 公共施設等 PFI法第2条第1項に規定する公共施設等
- (3) 公共施設整備事業 PFI法第2条第2項に規定する公共施設等の整備等に関する事業
- (4) 利用料金 PFI法第2条第6項に規定する利用料金
- (5) 運営等 PFI法第2条第6項に規定する運営等
- (6) 公共施設等運営権 PFI法第2条第7項に規定する公共施設等運営権
- (7) 整備等 建設、製造、改修、維持管理若しくは運営又はこれらに関する企画をい、国民に対するサービスの提供を含む。
- (8) 優先的検討 この方針に基づき、宝塚市の公共施設等の整備等の方針を検討するに当たって、多様なPPP／PFI手法の導入が適切かどうかを、自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法に優先して検討すること。
- (9) 指針 「多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するための指針」（平成27年12月15日民間資金等活用事業推進会議決定）

第3 対象とするPPP／PFI手法

この方針の対象とするPPP／PFI手法は、主に次に掲げるものとする。

- (1) 民間事業者が公共施設等の運営等を担う手法

- ア 公共施設等運営権方式
 - イ O方式（運営等 Operate）
 - ウ 指定管理者制度
 - エ 包括的民間委託
- (2) 民間事業者が公共施設等の設計、建設又は製造及び運営等を担う手法
- ア BTO方式（建設 Build-移転 Transfer-運営等 Operate）
 - イ BOT方式（建設 Build-運営等 Operate-移転 Transfer）
 - ウ BOO方式（建設 Build-所有 Own-運営等 Operate）
 - エ DBO方式（設計 Design-建設 Build-運営等 Operate）
 - オ RO方式（改修 Renovate-運営等 Operate）
 - カ ESCO
- (3) 民間事業者が公共施設等の設計及び建設又は製造を担う手法
- ア BT方式（建設 Build-移転 Transfer）（民間建設買取方式）
 - イ 民間建設借上方式
 - ウ 市街地再開発事業の特定建築者制度、特定業務代行制度及び特定事業参加者制度
 - エ 土地区画整理事業の業務代行方式

第4 優先的検討の開始時期

次に掲げる場合その他の公共施設等の整備等の方針を検討する場合に、併せて優先的検討を行うものとする。

- (1) 新たに公共施設等の整備等を行うために基本構想、基本計画等の策定を行うとき
- (2) 公共施設等の運営等の見直しを行うとき
- (3) 公共施設等総合管理計画又は「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月29日インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）Ⅳの「個別施設計画」の策定又は改定を行うとき
- (4) 「公営企業の経営に当たっての留意事項について」（平成26年8月29日総務省自治財政局通知）第2の「経営戦略」の策定又は改定を行うとき
- (5) 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成26年12月27日閣議決定）Ⅱ2(3)の「地方版総合戦略」の策定又は改定を行うとき

- (6) (4)に掲げるもののほか、公営企業の経営の効率化に関する取組を検討する場合
- (7) 市有地の未利用資産等の有効活用を検討する場合
- (8) 公共施設等の集約化又は複合化等を検討する場合

第5 優先的検討の対象とする事業

次の(1)及び(2)に該当する公共施設整備事業を優先的検討の対象とする。

- (1) 次のいずれかに該当する公共施設整備事業であつて、民間事業者の資金、経営能力及び技術的能力を活用する効果が認められる公共施設整備事業
 - ア 建築物又はプラントの整備等に関する公共施設整備事業
 - イ 利用料金の徴収を行う公共施設整備事業
- (2) 次のいずれかの事業費基準を満たす公共施設整備事業
 - ア 整備等の事業費（運営等の事業費を除く。）が10億円以上の公共施設整備事業
 - イ 単年度の事業費（運営等の事業費に限る。）が1億円以上の公共施設整備事業
- (3) 対象事業の例外
 - (1)及び(2)にかかわらず、次のいずれかに該当する公共施設整備事業を優先的検討の対象から除くものとする。
 - ア 既にPPP/PFI手法の導入が前提とされている公共施設整備事業
 - イ 競争の導入による公共サービスの改革に関する法律(平成18年法律第51号)に基づく市場化テストの導入が前提とされている公共施設整備事業
 - ウ 民間事業者が実施することが法的に制限されている公共施設整備事業
 - エ 災害復旧事業等、緊急に実施する必要がある公共施設整備事業

第6 適切なPPP/PFI手法の選択

- (1) 採用手法の選択

第5の優先的検討の対象となる公共施設整備事業について、第7の簡易な検討又は第8の詳細な検討に先立って、当該事業の期間、特性、規模等を踏まえ、当該事業の品質確保に留意しつつ、最も適切なPPP/PFI手法（以下「採用手法」という。）を選択するものとする。

この場合において、唯一の手法を選択することが困難であるときは、複数の手法を選択できるものとする。

(2) 評価を経ずに行う採用手法導入の決定

当該事業の同種の事例の過去の実績に照らし、(1)で選択した採用手法の導入が適切であると認められる場合は、第7の簡易な検討及び第8の詳細な検討を経ることなく、当該採用手法の導入を決定することができるものとする。

第7 簡易な検討

(1) 費用総額の比較による評価

別紙のPPP/PFI手法簡易定量評価調書により、自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法による場合と、採用手法を導入した場合との間で、次に掲げる費用等の総額（以下「費用総額」という。）を比較し、採用手法の導入の適否を評価するものとする。

第6(1)において複数の手法を選択した場合においては、各々の手法について費用総額を算定し、その最も低いものと、従来型手法による場合の費用総額との間で同様の比較を行うものとする。

ア 公共施設等の整備等（運営等を除く。）の費用

イ 公共施設等の運営等の費用

ウ 利用料金収入

エ 資金調達に要する費用

オ 調査に要する費用

カ 民間事業者の適正な利益及び配当

(2) その他の方法による評価

採用手法の過去の実績が乏しいこと等により費用総額の比較が困難と認めるときは、(1)にかかわらず、次に掲げる評価その他公的負担の抑制につながることを客観的に評価することができる方法により採用手法の導入の適否を評価することができるものとする。

ア 民間事業者への意見聴取を踏まえた評価

イ 類似事例の調査を踏まえた評価

第8 詳細な検討

第7の簡易な検討において採用手法の導入に適しないと評価された公共施設整備事業

以外の公共施設整備事業を対象として、専門的な外部コンサルタントを活用するなどにより、要求水準、リスク分担等の検討を行った上で、詳細な費用等の比較を行い、自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法による場合と、採用手法を導入した場合との間で、費用総額を比較し、採用手法の導入の適否を評価するものとする。

第9 評価結果の公表

公共施設整備事業が第7の簡易な検討又は第8の詳細な検討でPPP/PFI手法の導入に適しないと評価した場合には、次に掲げる事項を、インターネット上で公表するものとする。公表の時期については、入札手続等の公正性を確保するため、入札手続の終了後等の適切な時期に行うものとする。

- (1) PPP/PFI手法を導入しないこととした旨
- (2) 評価の内容（第7(1)の方法による検討でPPP/PFI手法の導入に適しないと評価した場合は、PPP/PFI手法簡易定量評価調書の内容を含む。）

第10 適用

この方針は、平成29年4月1日から適用する。

PPP/PFI手法簡易定量評価調書

		従来型手法	採用手法
(1)	公共施設等の整備等（運営等を除く）の費用		
	<算出根拠>		
(2)	公共施設等の運営等の費用		
	<算出根拠>		
(3)	利用料金収入		
	<算出根拠>		
(4)	資金調達に要する費用		
	<算出根拠>		
(5)	調査に要する費用		
	<算出根拠>		
(6)	税金		
	<算出根拠>		
	税引き後損益		
	<算出根拠>		
合計			
合計（現在価値）			
財政支出削減率			
その他（前提条件等）			